

アフリカの稲作 < 第 5 回 >

アフリカ地域陸稲品種選定技術コース

JICA 筑波の「アフリカ地域陸稲品種選定技術コース」の研修指導業務を 2006 年から 2008 年の 3 年間にわたり国際耕種が実施したことについては、本誌 65 号において報告した。その後も TICAD IV で、アフリカにおける「米生産倍増」が打ち出され、「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」が立ち上がる等、この分野の研修ニーズは一段と高まっていることから、本コースは 2009 年から 3 年間の継続が決定された。国際耕種はこの新たな 3 年間の研修指導業務を受託し 2010 年 10 月現在は、アフリカ 8 カ国 8 名の研修員を受け入れ、通算 5 回目の研修を実施している。



本コースはアフリカ稲センター (Africa Rice) が開発した陸稲ネリカ品種の普及を念頭においている。ネリカ品種を各国において普及していくた

めには、品種選定試験、種子生産、品種普及の各技術の向上が必要であるが、本コースでは、特に品種選定試験の実習をカリキュラムの中心に据えている。研修員が来日する 7 月末は陸稲の早生品種の出穂期に当たるため、研修員の実習は出穂の調査から始まる。その後、成熟期の調査、収量調査の実習を経て、研修後半では生データから収量などを計算する手法、さらには統計分析法について実習する。圃場設計や播種作業、出芽の調査については、別の実習圃場を準備し、季節外れではあるが 8 月に実習を実施している。また、種子生産についても講義や見学などでその概要を学ぶほか、異株の発生する実習圃場を準備し、異株抜き取りの技術を実践的に習得する。アフリカでは稲または陸稲の専門家といえる人材はまだ少なく、こうした基礎的な技術を圃場において実践できる人材が育つことが重要である。

JICA 筑波で実施している稲作関連研修 3 コースの中で、陸稲を研修対象にした研修コースは本コースのみであるが、研修期間が約 3 ヶ月間しかなく、陸稲の栽培技術を習得す

るには限界がある。茨城県で農家実践している陸稲栽培技術、適正施肥量や適正播種密度を検討する栽培試験の実施法など、アフリカの技術者にとって有益な研修課題はまだ多く残されている。これらの課題は JICA 筑波での研修に適しており、今後、検討が必要であろう。

表 1 にこれまでの研修員受け入れ状況を示した。本誌 65 号で、2006 年から 2008 年までの 3 年間は東・南部アフリカからの受け入れが中心で、西アフリカからの受け入れが少なく、“CARD 支援対象国”とずれがあったと指摘したが、2009 年からの研修では、CARD 支援対象国からの受け入れが中心となり、西アフリカからの受け入れは増加した。また、フランス語圏の研修員を受け入れる場合に考慮が必要とも指摘したが、現在まで受け入れたフランス語圏 5 カ国の研修員は、十分な英語力があり、大きな問題はなかった。CARD 支援対象候補国の中でまだ、受け入れのない国は多いが、特に西アフリカの第一グループのなかで、まだ受け入れのない国々については、英語での研修に対応できる人材が確保できれば、積極的に受け入れるべきであろう。

本誌 70 号の「遠くて近い国の友人たち」で紹介した研修フォローアップでは、マラウイの帰国研修員たちが、JICA 事務所などの支援を受けながら、研修で習得した技術を活かした品種選定の活動を進め、普及を目指した活動をしていることが確認できた。また、2009 年のカメルーン研修員が作成したアクションプランが所属先に認められ、2011 年から実施できることになったという報告も受けている。CARD 発足以降、アフリカの米生産支援の動きは活発化し、各国の米増産戦略が出揃ってきている。それらのプロジェクトが実践されていく中で、圃場で実際に仕事のできる帰国研修員の活躍の場は多くなっていくと考える。

表 1. アフリカ地域陸稲品種選定技術コースで受け入れた国と研修員数

地域	CARD 支援対象候補国カテゴリー	国名	受入研修員		地域	CARD 支援対象候補国カテゴリー	国名	受入研修員		
			2006-2008 (3年間)	2008-2009 (2年間)				2006-2008 (3年間)	2008-2009 (2年間)	
西部	第1グループ	ガーナ	1	2	東部	第1グループ	ケニア	2	0	
		ギニア	0	0			タンザニア	6	1	
		マリ	0	0			ウガンダ	3	2	
		ナイジェリア	2	1			第2グループ	エチオピア	2	0
		セネガル	0	0			小計	13	3	
	シエラレオネ	1	2	南部	第1グループ	マダガスカル	0	1		
	ベナン*	2	2			モザンビーク	2	0		
	ブルキナファソ	0	2			第2グループ	ザンビア	0	1	
	コートジボワール	0	2			支援対象候補国以外	マラウイ	4	0	
	ガンビア	1	1			ジンバブエ	4	1		
リベリア	0	0	小計	10	2					
トーゴ	0	0	合計	30	20					
小計			7	12						
中部	第1グループ	カメルーン	0	2						
		コンゴ民主共和国	0	0						
	第2グループ	中央アフリカ共和国	0	0						
		ルワンダ	0	0						
小計			0	2						

*ベナンから受け入れた研修員はすべて Africa Rice Center (旧 WARD) 派遣 JICA 専門家のカウンターパート枠、合計 4 名のうちベナン国籍の者は 1 名。